

2022/6/18 阪大専門研修プログラム 内科系合同説明会

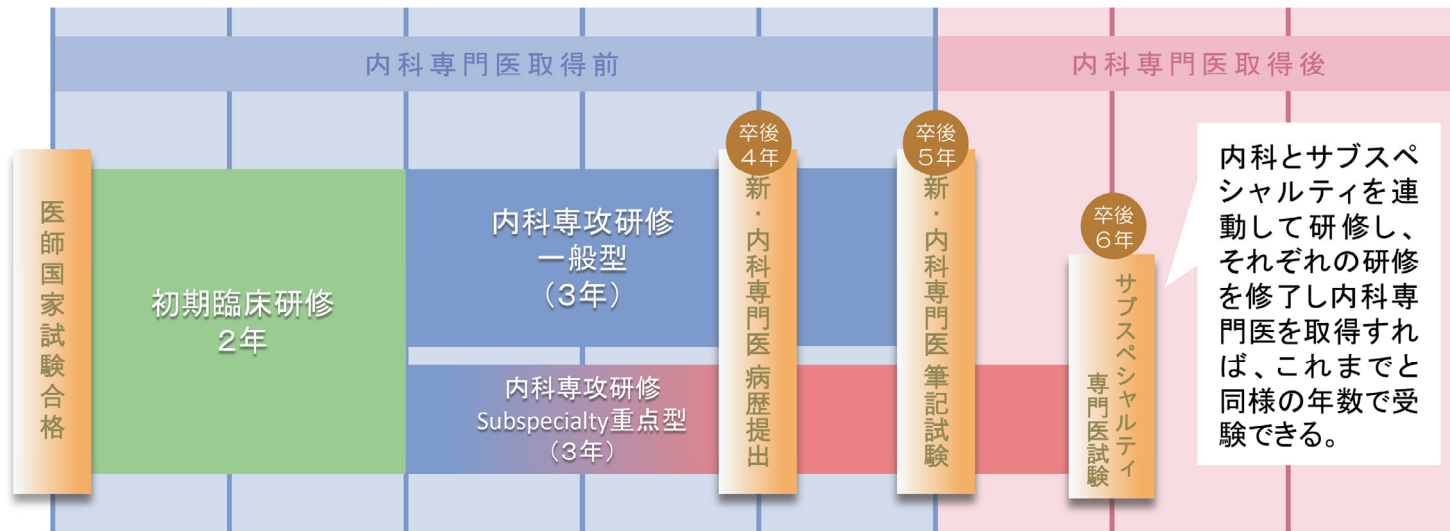


内科専門医制度と 阪大病院関連プログラム

大阪大学医学部附属病院内科系科専攻医サポートセンター
大谷 朋仁

内科専門医制度の概要

現行制度
2018/4～



内科専門医

サブスペ専門医

専門医制度のコンセプト



OPEN 2021

- 「専門医の質を高め、良質な医療が提供されること」を目的に中立的な第三者機関
日本専門医機構が、専門医の認定と養成プログラムの評価・認定を統一的に行う。
- 基本領域とサブスペシャリティ領域の
二段階制
- 統一化された専門医資格で地域医療への貢献につなげる

サブスペシャリティ領域専門医 (29領域)

集中治療
脊髄脊髄外科
手外科
放射線診断
放射線治療
頭頸部がん
生殖医療
婦人科腫瘍
周産期
がん
小児血液
小児神経
小児病循環器
リウマチ
小児外科
心臓血管外科
呼吸器外科
消化器外科
神経内科
老年病
感染症
アレルギー
肝臓
腎臓
糖尿病
内分泌代謝
血液
呼吸器
循環器
消化器病

基本領域専門医 (19領域)

内科
小児科
皮膚科
精神科
外科
整形外科
産婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
泌尿器科
脳神経外科
放射線科
麻酔科
病理
臨床検査
救急科
形成外科
リハビリテーション科

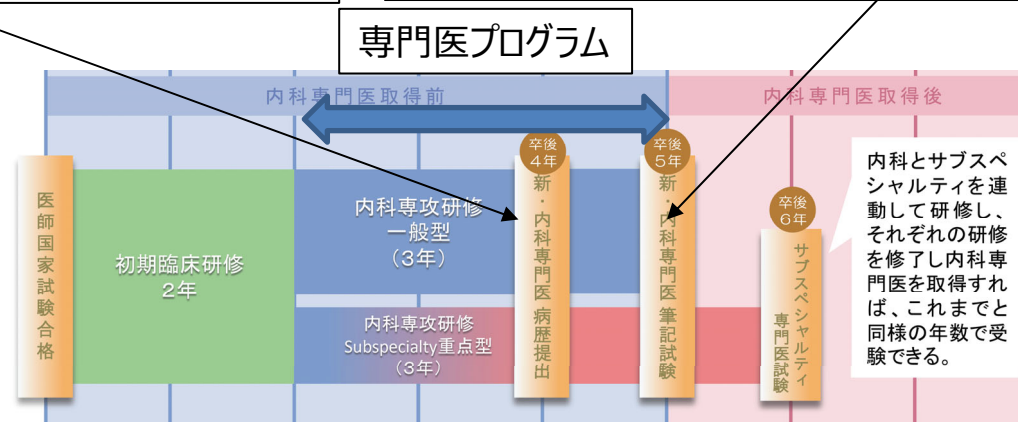
総合診療

「第44回社会保障審議会医療部会資料2-1」より

ポイント1：経験すべき症例等が細かく規定

70疾患群のうち、少なくとも 通算で45疾患群以上を経験し、システムに登録

通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上を登録
最終的に病歴要約29編（査読あり）を提出⇒筆記試験へ

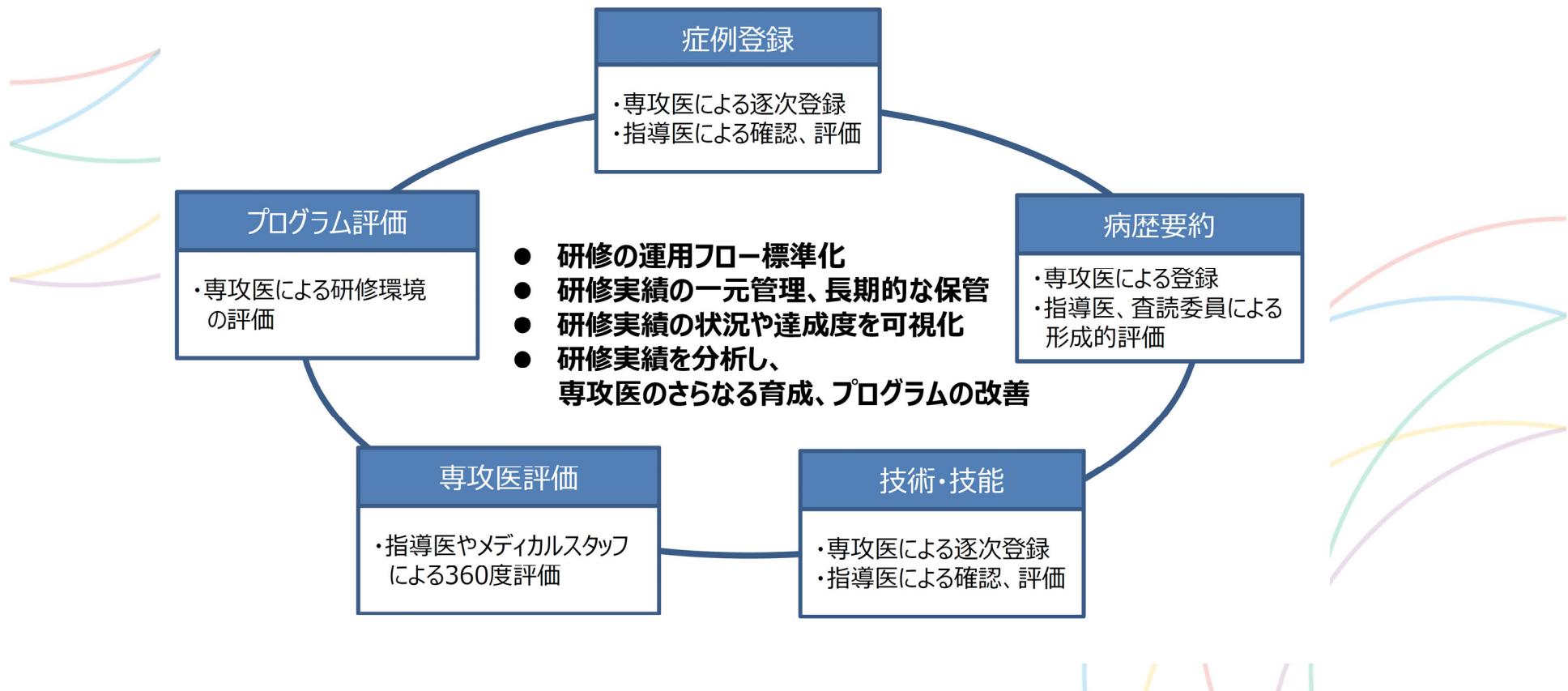


その他研修期間内に修了が必要な条件

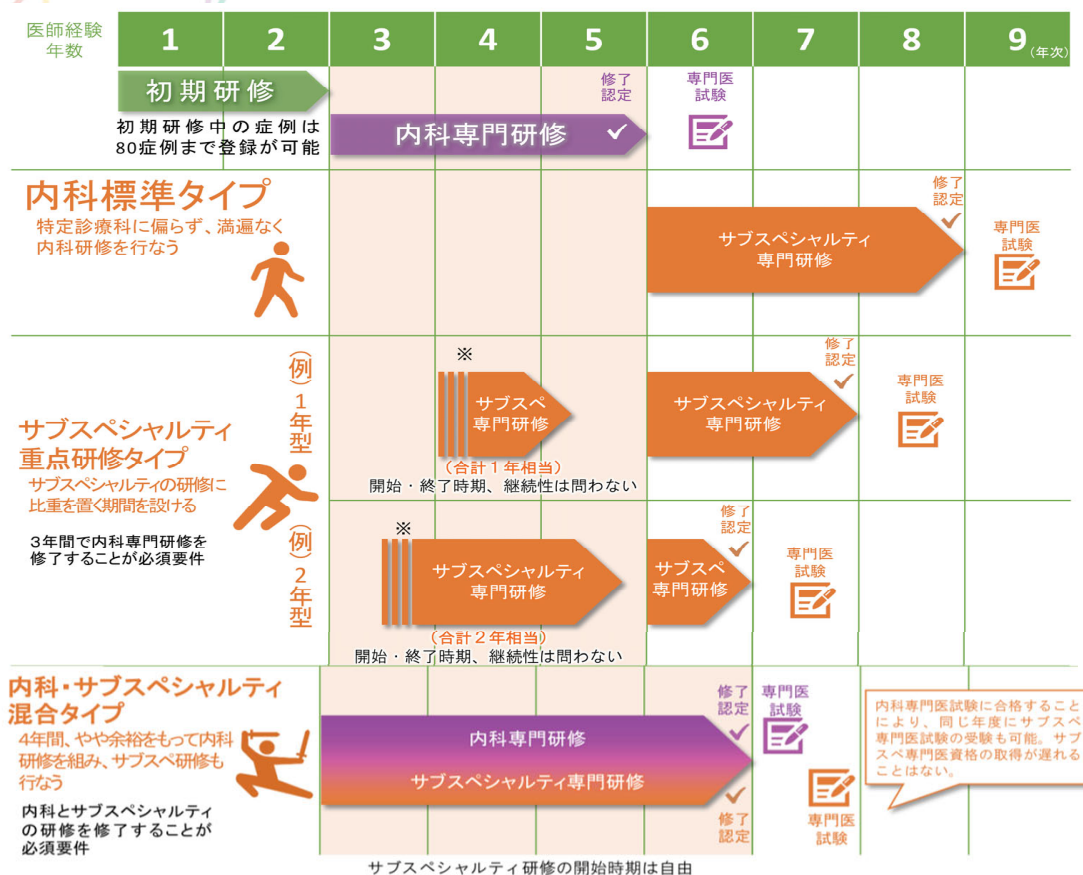
- 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加すること
- 筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を2件以上すること
- 外来が必須（外来受け持ちの病歴要約提出が義務付けられている）
- JMECC（内科救急・ICLS講習会）受講 など

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）

Online system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training system



サブスペシャリティ（専門分野）研修



ポイント2：複数施設での症例経験が必要



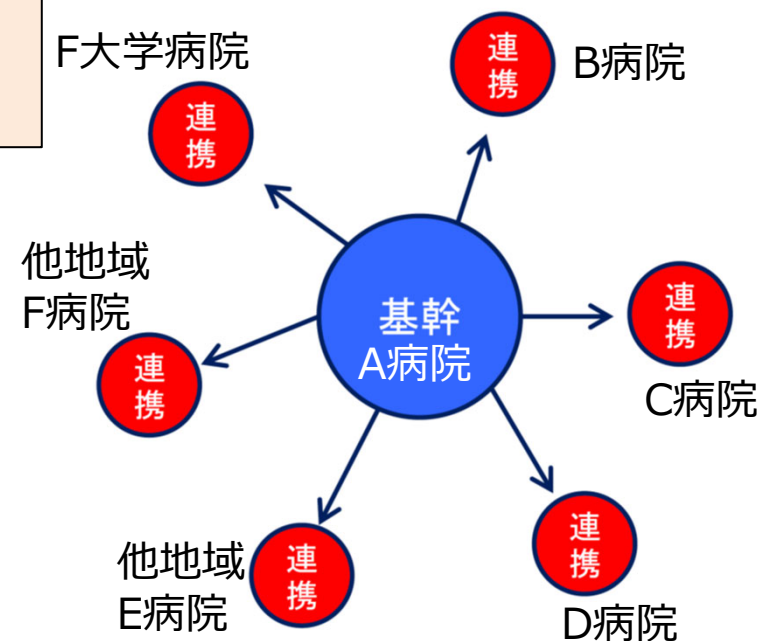
パーソナルウェブ ログイン

会員ID、パスワードについて

A病院プログラム（例）

基幹施設での研修1年以上
連携での研修も1年以上
(特例的に連携が半年のプログラムも)

プログラム名	基幹施設名	内容	統括責任者	連絡担当
和泉市立総合医療センター内科専門プログラム	和泉市立総合医療センター	PDF	大野 恭裕	大野恭裕
大阪労災病院内科専門研修プログラム	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院	PDF	山内 淳	金原彰子
関西電力病院内科研修プログラム	関西電力病院	PDF	濱野 利明	久保克典
府中病院内科専門研修プログラム	社会医療法人生長会 府中病院	PDF	田口 晴之	大西由希子
高槻赤十字病院内科専門研修プログラム	高槻赤十字病院	PDF	神田 直樹	阿部哲子
大阪医科薬科大学病院附属病院内科専門研修プログラム	大阪医科薬科大学病院	PDF	星賀 正明	星賀正明
愛仁会高槻病院内科専門研修プログラム	社会医療法人愛仁会高槻病院	PDF	船田 泰弘	西川夢乃
北摂総合病院 内科専門研修プログラム	社会医療法人仙養会 北摂総合病院	PDF	木野 昌也	池田健士
千船病院内科専門研修プログラム	社会医療法人愛仁会千船病院	PDF	尾崎 正憲	伊藤哲行



ポイント2：複数施設での症例経験が必要

A病院プログラム（例）

基幹施設での研修1年以上
連携での研修も1年以上
(特例的に連携が半年のプログラムも)

例

A(1年)→B(半年)→E(半年)→A(1年)

基幹

連携

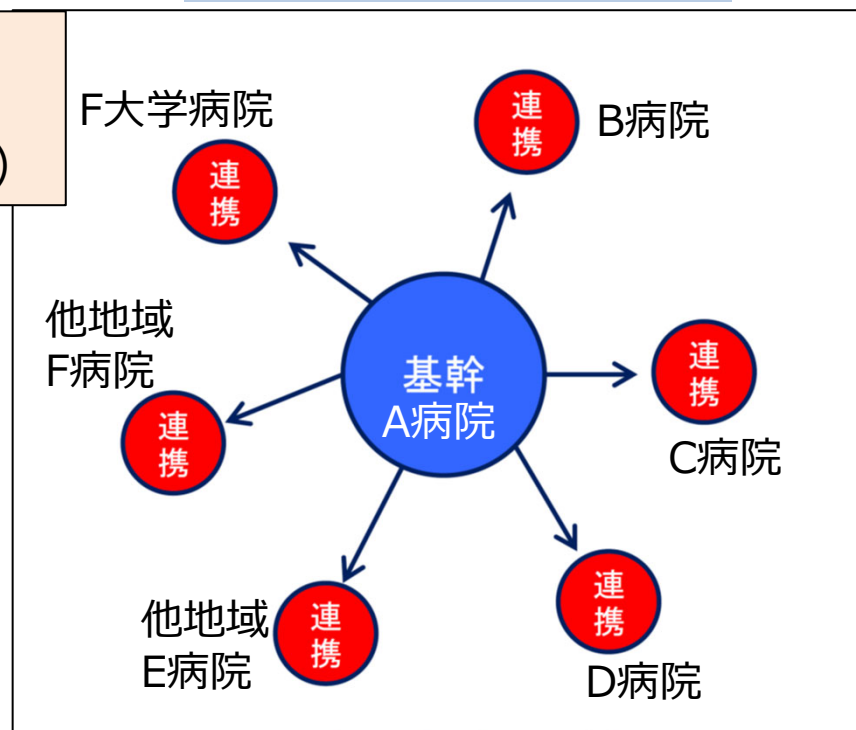
基幹

A(1年)→D(2年)

基幹

連携

特に医療過疎地域での研修が推奨されるよう
になりつつある現状



モデルケース（内科学会掲載）

基幹2年、連携施設1年



内科基本コース

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	呼吸器・アレルギー			神経			腎臓			消化器		
	1回/月のプラマリケア当直研修を6ヶ月間行う											
		1年目にJMECCを受講（プログラムの要件）										
2年目	腫瘍			循環器			血液・膠原病			内分泌・代謝		
										内科専門医取得のための 病歴提出準備		
3年目	連携施設											
	初診＋再診外来 週に1回担当（プログラムの要件）											
	(3年目までに外来研修を終了できることを明記)											
そのほかプログラムの要件			安全管理セミナー感染セミナーの年2回の受講、CPCの受講									

※モデルプログラムとして紹介するこのコースでは連携施設での研修を3年目としていますが、連携施設での研修を何年目に行うのかはプログラムの任意となります。（最終的に修了要件を満たすことが重要です）

内科専門医の研修では各内科系診療科のローテーションが義務付けられているのですか。

ローテーションは義務付けられていません。

修了要件に必要な症例の経験を得ることが求められています。ローテーション研修は適切な症例経験を積むためのプログラムとして用いられることが多いようですが、それぞれのプログラムの中で専攻医の達成状況によって柔軟に組み立てることができます。各プログラムの状況はそれぞれのプログラム責任者にお尋ねされるのがよいと思います。

Subspecialty 重点コース

例) 循環器内科を Subspecialty にした場合の重点コース												
専攻医研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	循環器内科にて初期トレーニング				他内科 1		他内科 2		他内科 3		他内科 4	
	5 月から 1 回 / 月のプラマリケア当直研修を 6 ヶ月間行います (プログラムの要件)											
	1 年目に JMECC を受講 (プログラムの要件)											
2 年目	他内科 5		他内科 6		他内科 7		他内科 8		他内科 9		予備(充足してない領域をローテーション)	
										内科専門医取得のための 病歴提出準備		
3 年目	連携施設設 (Subspecialty 重点期間は 1 年目の 4 ヶ月と合算して最長 1 年間とします)											
	初診＋再診外来 週に 1 回担当(プログラムの要件)											
そのほかプログラムの要件			安全管理セミナー感染セミナーの年 2 回の受講, CPC の受講									
他科ローテーションについて	最初の 4 ヶ月は所属科にて基本的トレーニングを受けます。その後、他科を原則として各 2 ヶ月間ローテーションします。ローテーションの順序は研修センターが決定しますが、充足状況などを勘案し、2 年目最後の 2 ヶ月に不足科をローテーションします。ローテーション中は当該科の指導医が研修指導します。											
その他	他の内科ローテーション中は当該科の当直とします。入局先の検査や業務(循環では TMT,RI, 陪席, 緊急当番など)は他科ローテーション中は免除します。地域医療研修として 2 年目の後半以降に関連病院での内科総合初診外来を担当します。大学院進学の場合は本コースで考慮します。大学院籍は専門医制度と組んでいるわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専攻研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。											

<https://www.naika.or.jp/nintei/shinseido2018-2/notes-2/>

専攻医への応募



■専攻医1次募集

応募期間	2021年11月 1日（月） 正午～2021年11月12日（金） 正午まで
採用調整期間	2021年11月15日（月） 正午～2021年11月24日（水） 正午まで
採用結果通知	2021年11月29日（月）
募集実施確認期間	2021年11月25日（木） 正午～2021年11月29日（月） 正午まで

■専攻医2次募集

応募期間	2021年12月 1日（水） 正午～2021年12月14日（火） 正午まで
採用調整期間	2021年12月16日（木） 正午～2021年12月23日（木） 正午まで
採用結果通知	2021年12月24日（金）
募集実施確認期間	2021年12月24日（金） 正午～2022年 1月 5日（火） 正午まで

■専攻医募集 最終調整期間

応募期間	2022年 1月 6日（木） 正午～2022年 1月18日（火） 正午まで
採用調整期間	2022年 1月20日（木） 正午～2022年 1月28日（金） 正午まで
採用結果通知	2022年 1月31日（月）



シーリング：採用数の上限設定

- 2023年度も大阪府はシーリング対象となり、内科全体で 合計 252名 の見込み
通常採用 200名、地域連携プログラム（府外1.5年）10名
特別地域連携プログラム 21名、
子育て支援プログラム（特別地域連携プログラムを設定したプログラムのみ） 21名

（特別地域連携 1年間）：青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、埼玉県、新潟県、静岡県

	2020年度 定員	2023年度 定員	2023年度 採用数
阪大関連の プログラム			
Aプログラム	5	→ 4	→ 4?
Bプログラム	10	→ 8	→ 6?
Cプログラム	7	→ 5	→ 4?
阪大病院内科専門プログラム	10	→ 7	→ 7?
・	・	・	・
・	・	・	・
阪大関連以外 のプログラム			
Dプログラム			
Eプログラム			
・			
・			

応募受付開始

定員 = 採用数と
必ずしもならない

- 同一プログラムで同一科で複数の採用が困難な場合もある
- シーリング数を超過する可能性が高い
- 兵庫県との連携

早めにご相談ください

406 → 通常枠約250 (全部で約302) 通常枠200 (計252) 見込み

専門研修（後期研修）をサポート



阪大内科系全診療科

循環器内科

入局希望者①
(大阪医療センタープログラム希望)
入局希望者②
(大阪警察病院プログラム希望)
⋮

消化器内科

入局希望者③
(大阪労災プログラム希望)
入局希望者④
(大阪府立プログラム希望)
⋮

腎臓内科

入局希望者⑤
(大阪労災プログラム希望)
入局希望者⑥
(市立豊中プログラム希望)
⋮

阪大内科専攻医サポートセンター

循環器内科 消化器内科
腎臓内科 内分泌代謝内科
呼吸器内科 免疫内科
老年総合内科 神経内科
血液腫瘍内科

情報を集約
各基幹施設と協議
各科バランスを考慮しながら調整
推薦者リストを作成

推薦者
リスト

プログラム責任者

大阪労災プログラム

関西労災プログラム

大阪医療センタープログラム

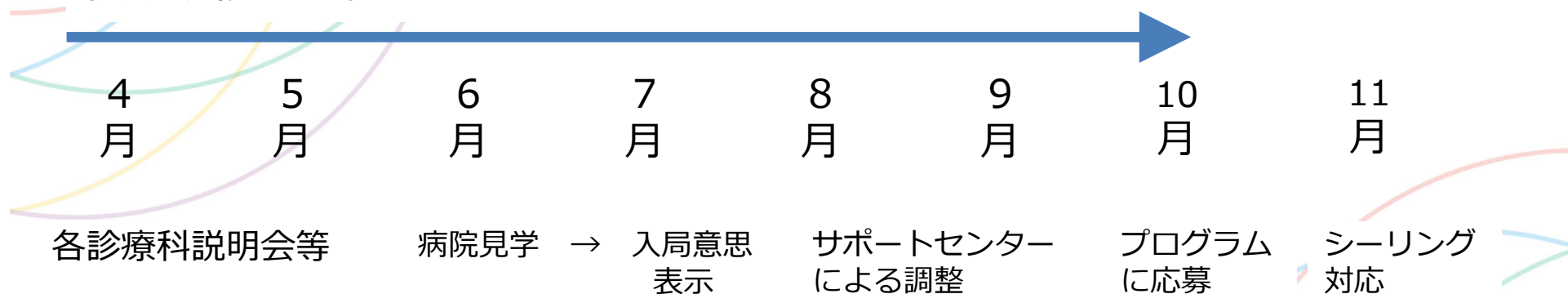
警察病院プログラム

大阪急性期・総合
医療センタープログラム
⋮

早目に診療科を決め、 今後の専門研修の意思表示を！



初期研修医2年目



初期研修病院の専門研修を希望

部長や大学関係者などへ意思表示

- ・ マッチングは行わず、応募できるのは1プログラムのみ
- ・ 不採用となった場合、シーリングのため大阪府下で2次募集応募は事実上行われない